

---

パネルディスカッション「三年目の「公共」とこれから

# 巨大プラットフォーム企業の経済学

～「架橋」アプローチを超えるために～

2024年8月20日（火） 渋谷教育学園幕張高校 吉田真大

---

# 本報告の切り口 ※話す順番とは関係ありません

## 1. 公共の悩みどころ

「**自分ごととして捉える**」にこだわってやってきたが…

⇒このアプローチ自体限界があるのではないか

## 2. 「進学校」の経済教育の現状と課題

そもそも、「進学校」とはどのような場所であり、何を期待されるのか

⇒**科学的リテラシー論**を援用した「啓発的民衆の育成」という視点

## 3. 実践例の検討

2023年の実践「巨大プラットフォーム企業」の検討

⇒「**三年目の公共**」に向けて、改善の方向性を考える

---

## 1. 問題意識

「自分ごと」には限界がある？

# 「自分ごと」には限界がある？

## 2023年度 授業アンケートより

Q.科目「公共」の目的は、ざっくり言うと「現代社会の諸課題を自分ごととして捉え、解決策を模索する姿勢と能力を養う」ことでした。この観点から4月以降のこの授業を評価し、改善の方向性を論じてください。

A.解決策を模索するという姿勢については毎授業のグループワークなどの活発な議論で開発することができるものだったと思う。(授業に積極参加した人について)

ただ「自分ごと」である問題を議論をしている、という感覚は場で共有されていなかったように感じる。

いかにしてその問題が、あるいは提案する解決策が自分の日常に影響しうるのかという観点をもって授業に臨めるように誘導する必要がある気がした。

# 「自分ごと」にこだわろうとした2023年度

## 政治分野

単元	導入	内容(資料)
地方自治	近年の部活動改革の動向 ⇒部活動改革のあるべき方向性とは?	1. 指導者の質 2. 教員の労働時間 3. 過疎地域の問題
民主政治	本校の生徒会選挙は茶番? ⇒生徒会はどのようなものであるべきだろうか?	1. 民主性と生徒会 2. 専門性と生徒会
選挙	民意と乖離する政治 ⇒望ましい政治制度とは?	1. レファレンダム 2. エリート競争型 3. ロトクラシー
政治参加	校内の政治活動を規制された事例 ⇒本校で実施している署名はどう判断される?	1. 15年通知 2. 行政法上の私立学校の位置づけ
裁判	髪色を規制する広告 ⇒ブラック校則にどう対処するか?	1. 市場競争型 2. 部分社会論 3. コミュニティースクール

## 経済分野

単元	導入	内容(資料)
経済とは	大谷翔平と教員の給料 ⇒「賃金格差は公平か?」と問うことは可能か?	希少性、需要供給曲線
基本知識	主流派経済学の基本的な考え方	需要供給曲線、社会的余剰、貨幣 ※講義形式
企業	Youtubeの広告が長い ⇒単一の企業による独占をどう評価するか?	1. 取引費用 2. 社会的余剰
労働	労働者は解雇規制によって守られている ⇒解雇規制を緩和するべき?	1. 労働市場の流動性 2. 企業内教育
財政金融	モー娘。「Loveマシン」 ⇒なぜ「日本の未来」はこんなに暗いものになってしまったのか	1. リスクプレミアム 2. 実質金利 3. GDP

# 「自分ごと」にこだわろうとした2023年度

例：巨大プラットフォーム企業

導入：「広告をスキップ」を待つだけの虚無の5秒間について

説明：プラットフォームビジネスと自然独占の関係

問い：独占の規制は功利主義的に望ましいか？

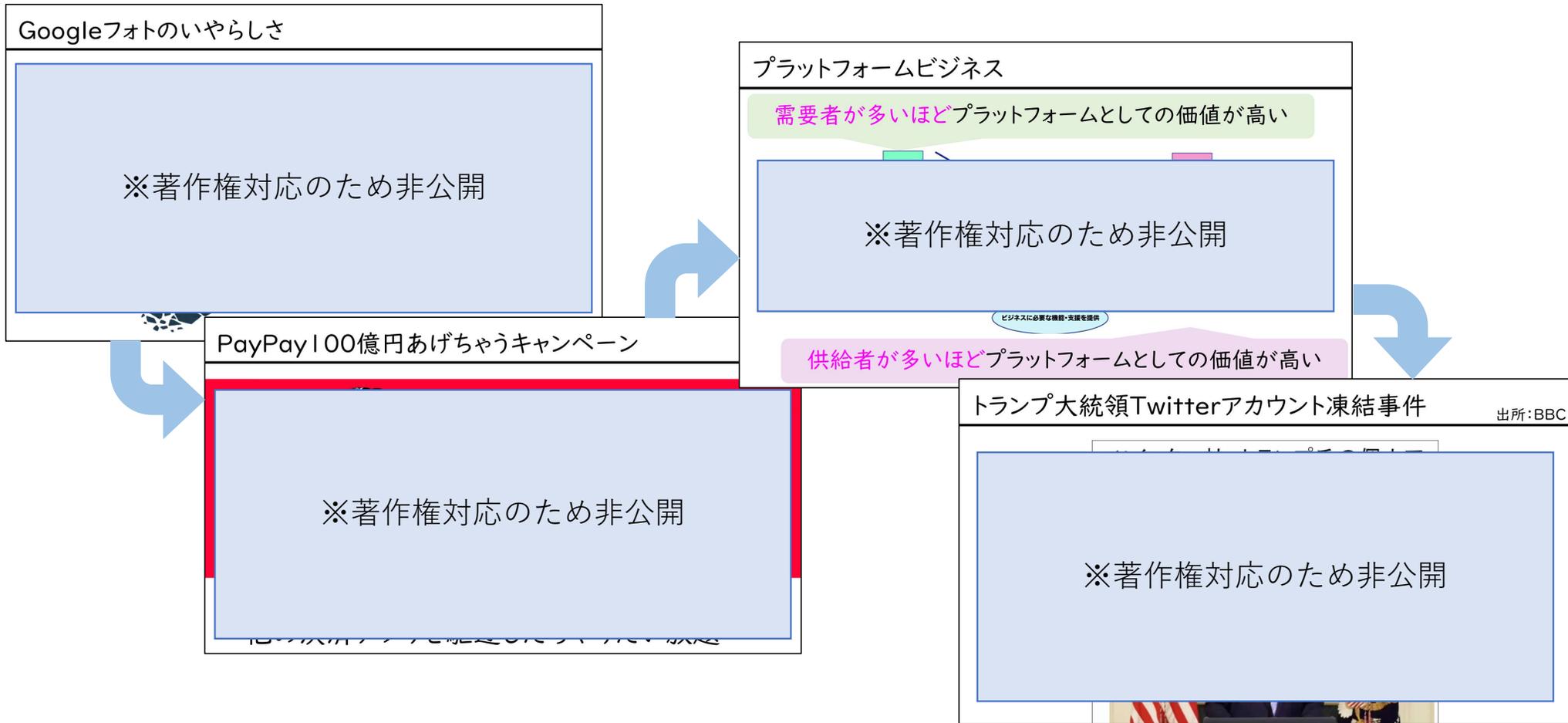
資料1：

「取引費用」に注目して独占（合併・大企業化）を擁護する文章

資料2：

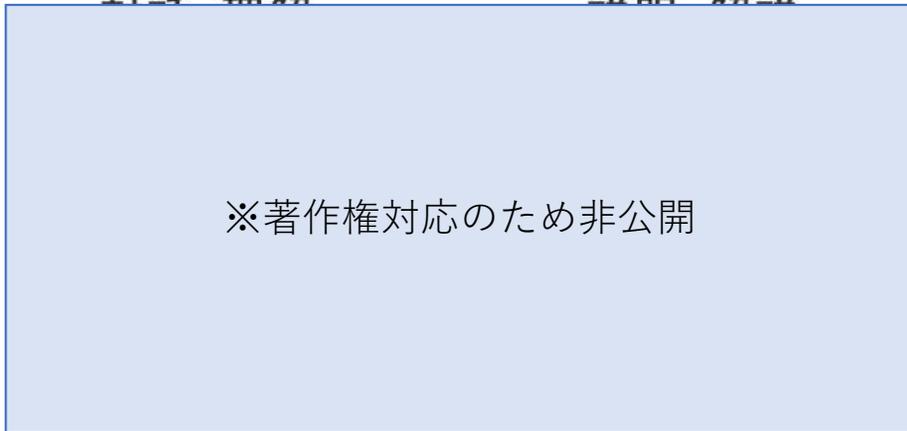
「社会的余剰」に注目して独占（独占価格）を批判する文章

# プラットフォームビジネスの事例紹介



# 授業の形式・内容

## 形式：ジグソー法



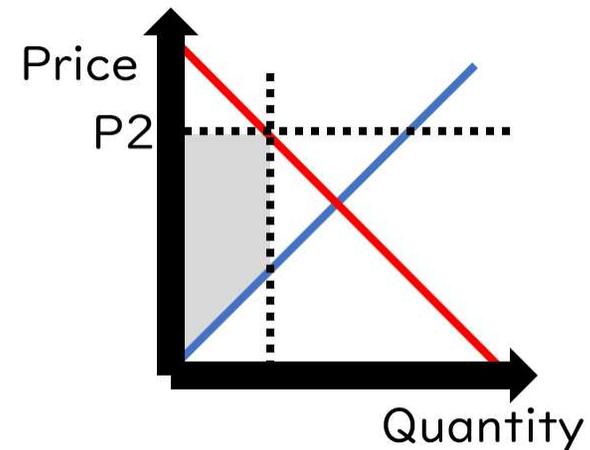
画像出所：ミテモHOMEROOM 2018年12月12日

<https://note.com/mitemohomeroom/n/n47a9d31e603a>

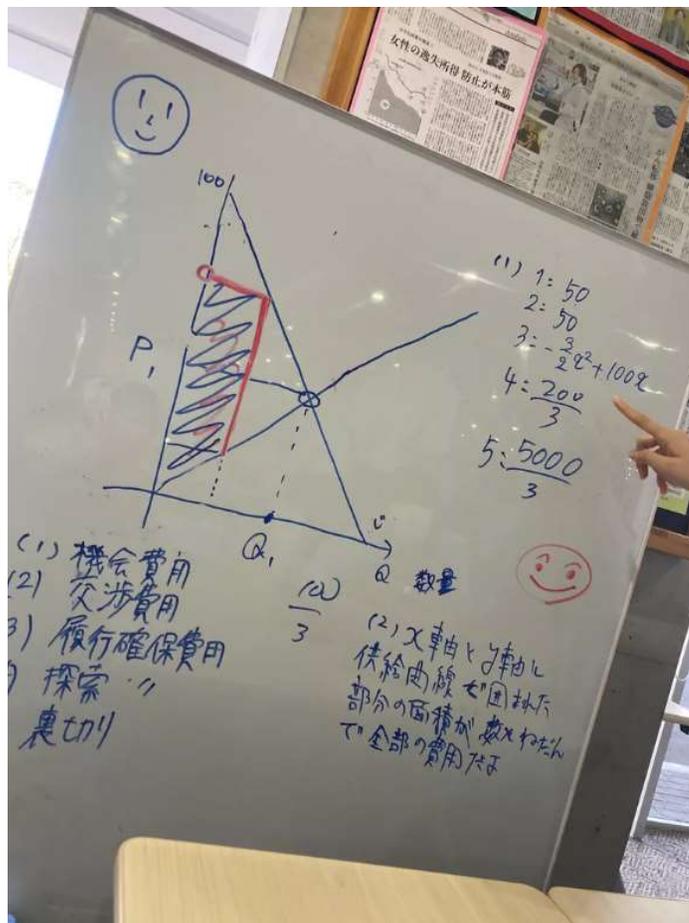
## 内容：添付資料参照

資料2一部抜粋：

下図のように社会的余剰の枠組みを用いて、「企業が利潤を最大化したときの価格」が余剰最大化を実現しないことを説明



# 生徒のアウトプット



生徒A:

解体を求めないことにより独占が発生し、満足と利潤の総和である総余剰が小さくなってしまいう  
ため功利主義的に望ましい。

生徒B:

利益の独占以上に、その巨大プラットフォーム企業の提供するサービス・商品に依存している人、利益を得ている人がとても多いのが現状。消費者の利益だけにフォーカスしても正直解体のほうがメリットが多いとは私は思えない。企業側からしたら独占状態の方が儲かるのだし、winwinかと思う。巨大企業でしかできないメリットを存分に享受することで私たちの生活は成り立っているんじゃないかな。(論点はずれています)

# 「架橋」アプローチ

高校生の生活実感と企業経営や競争政策には隔たりがある

⇒「身近な話題」から入り、それがマクロな政治経済と繋がっていることを示す「架橋」アプローチ

「自分ごととして捉える」ということ

アプローチ①  
「身近な題材」で“架橋”する

- ・部活動改革
- ・生徒会選挙
- ・Youtube広告  
etc...



The illustration shows a student sitting at a desk on the left. In the center, a family consisting of a man, a woman, and two children is walking. On the right, two men in suits representing politicians are shown, one holding a red sign with the character '衆' (Shū) and the other a blue sign with '参' (San), with a building in the background.

プラットフォーム企業による  
「不当廉売」と  
「優越的地位の濫用」

架橋 ↑ Youtubeの広告

高校生の生活世界

# 「架橋」アプローチの限界？

## 再び、授業アンケートより

Q.科目「公共」の目的は、ざっくり言うと「現代社会の諸課題を自分ごととして捉え、解決策を模索する姿勢と能力を養う」ことでした。この観点から4月以降のこの授業を評価し、改善の方向性を論じてください。

A.少なくともただ教科書の解説なりをする授業よりは格段に良いと思うが、個人的には「解決策を模索する姿勢と能力を養う」ことはまだしも、「現代社会の諸課題を自分ごととして捉え」ることは皆できていない気がする。

改善するには、**自分ごとと捉えたほうがむしろ客観的になれなくて困る時がある**というのを、目的を設定した人に伝える必要がある。

# 「架橋」アプローチの限界？

## 再び、授業アンケートより

Q.科目「公共」の目的は、ざっくり言うと「現代社会の諸課題を自分ごととして捉え、解決策を模索する姿勢と能力を養う」ことでした。この観点から4月以降のこの授業を評価し、改善の方向性を論じてください。

A.少なくともただ教科書の解説なりをする授業よりは格段に良いと思うが、個人的には「解決策を模索する姿勢と能力を養う」ことはまだしも、「現代社会の諸課題を自分ごととして捉え」ることは皆できていない気がする。

改善するには、**自分ごとと捉えたほうがむしろ客観的になれなくて困る時がある**というのを、目的を設定した人に伝える必要がある。

⇒「架橋」アプローチ自体やめてしまうべき？

---

## 2. 経済教育の目的とは

「経済学」を知る？

# 補足資料「進学校における経済教育」

結論：高学力校だからこそできる、「経済学」そのものを深く知  
ることを目的にした授業が必要ではないか

詳しくは補足資料をご参照ください

経済教育ネットワーク

## 「進学校」の経済教育

理科教育における「科学リテラシー」論の援用可能性

渋谷教育学園幕張高等学校

公民科 吉田真大

1. イントロダクション 教科教育研究における「進学校」の位置づけ p.2
  - 1-1.「進学校」とは
  - 1-2.教科教育研究の射程
  - 1-3.本論文の問題関心

## 社会科教育学者の指摘

「知的に面白い」授業をテクニカルに教室で実施することは大切なことかもしれないが、それだけで授業が成り立つのは比較的学力の高い子どもたちだけであり、多くの子どもたちには別の学びの「意味づけ」が必要となる

渡部竜也・井手口泰典『社会科授業づくりの理論と方法』（明治図書、2020年）p.6

普遍的な方法論  
を探究する姿勢は  
科学的なものとして  
是認し得る

一方で…

「比較的学力の高い子どもたち」に対して  
「知的な面白さ」だけで真っ向勝負する授業  
も研究対象とされて良いのではないか

---

### 3. 「公共」のこれから

「母学問のとびら」としての内容項目B

# 「母学問のとびら」としての内容項目B

## 内容項目A

### 公共のとびら

- ▶ 「大人になる」とは
- ▶ 倫理的選択・判断  
etc...

- ・進路選択(高2秋)
- ・非専門家のための  
専門教育

## 内容項目B

### 母学問のとびら

- ▶ 「政治学」の世界
- ▶ 「経済学」の世界  
etc...

内容項目C (or総合探究)  
「探究」を通じた架橋

← 高校生の生活世界

→ “専門性”の世界

# 「経済学のとびら」を開く

「公共」における経済教育カリキュラムの構想(2024年版)

ゴール: 民主党的「大きな政府」と共和党的「小さな政府」の対立を理解する

## 経済理論パート

1. 「社会的余剰」の概念と「余剰最大化原理」を知る
2. 均衡価格が余剰最大化を実現することを知る
3. 「市場の失敗」を社会的余剰を通して理解する
4. 「政府の失敗」を知る

## 現実の経済政策パート

1. 「レーガノミクス」を題材に新自由主義の興隆を理解する
2. 経済的格差とリーマンショックを題材に、オバマ政権の経済政策を理解する
3. 介入主義的なトランプ政権の経済政策を理解する

---

## 4. ディスカッション

「公共」、それで良いのか？

# 「公共」、それで良いのか？

## 1. 「架橋」アプローチは本当に不可能なのか？

下手なだけではないか？ 題材選定に工夫をこらせば、日常的な話題だけで経済を語りつくすことも可能なのでは？

## 2. 「感性」アプローチを実装できないか？

「自分ごと」として感じられる事柄の範囲を広げる「感性」アプローチを授業に落とし込めないか？ それこそ主権者教育の本丸ではないか？

## 3. 高校における経済“学”教育のあるべき姿とは？

母学問に振り切るとして、あるべき経済学教育の姿はこれで良いか？

※本日のメインテーマからは外れるので、視点の紹介にとどめます